

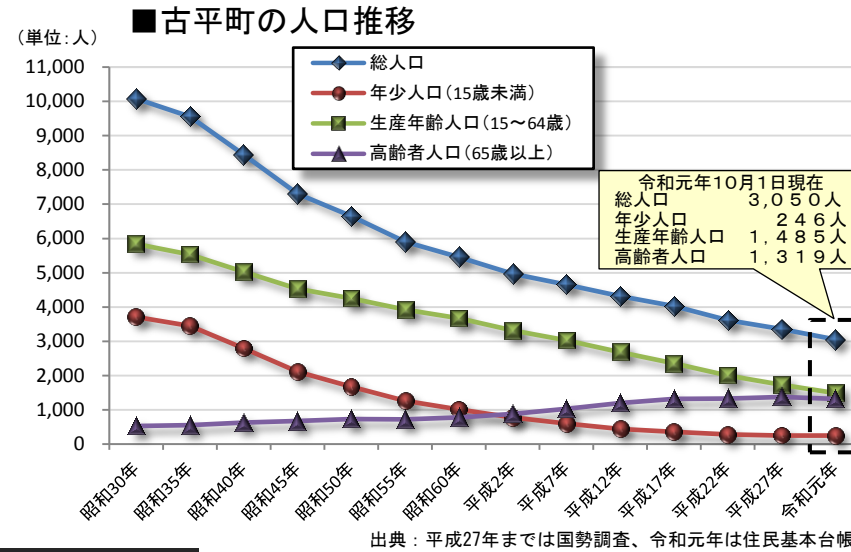
第2期 古平町まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要】

[推進期間 令和2年度～令和6年度]

人口減少・少子高齢化

本町の人口は、昭和30年の10,073人をピークに減少の一途を辿ってきています。少子高齢化が急速に進んでおり、生産年齢人口は総人口の半数以下まで減少しています。

平成29年には、それまで増加が続いていた高齢者人口も減少に転じており、年齢3区分全てにおいて人口の減少が進行しています。

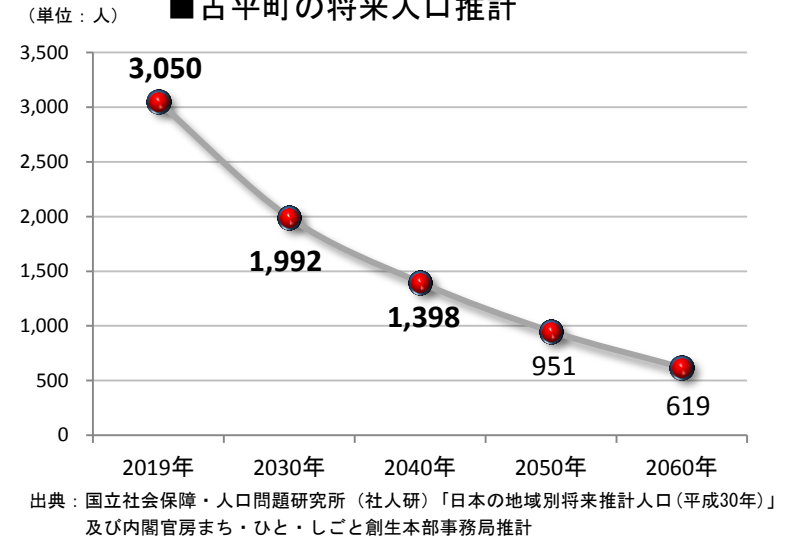


人口の将来展望

国立社会保障・人口問題研究所の公表数値によると、本町の将来人口は、2030年に約2,000人、2040年には約1,400人まで減少すると推計されています。

大変厳しい人口推計ですが、この結果を冷静に受け止めて、見通しを下回ることのないよう人口減少の緩和に努めるとともに、人口減少社会に適応したまちづくりを進めていく必要があります。

古平町の将来人口推計



課題解決に向けた4つの基本目標

本町が抱える課題の解決に向け、次に掲げる4つの基本目標に沿って、人口減少を和らげる取組を進めるとともに、長期的かつ客観的な視点から、将来にわたって持続可能なまちの下地づくりを重点的に進めます。

基本目標1 人口減少下においても安心して暮らせるまちの実現

医療、福祉、商業など日常生活に必要なサービスを受けられる環境を維持しながら都市機能の集約を進めるとともに、まちなかの賑わい再生や生活の利便性向上を図ります。

■ 将来を見据えたまちづくり

- コンパクト・プラス・ネットワークの形成
- 防災対策の充実・強化
- 地域エネルギーの利活用と地球環境への配慮
- ICT(情報通信技術)を活用した生活利便性の向上

■ 都市機能の集約とまちなかの賑わい再生

- 公共施設の集約・更新
- 中心拠点誘導複合施設や150年広場等を核とした賑わい再生



基本目標2 古平町の産業振興を図り、所得の安定をめざす

獲る漁業からつくり育てる漁業への転換を進めるとともに、水産加工品の販路拡大・付加価値向上に取り組むほか、観光と連携した商業振興を図ります。

■ 地域資源を活かした産業振興と所得の確保

- 漁業・農業等の経営・生産基盤の強化
- 水産加工品の販路拡大
- 産業振興の担い手育成

■ 町内経済の活性化

- 商業の活性化
- 観光交流センター(仮称)を活用した町内消費の拡大



基本目標3 出産・子育て環境の整備と医療・福祉の充実

地域ぐるみで子どもを育む環境づくりや町民の健康寿命の延伸に努めるとともに、人口が減少しても安心して医療、福祉のサービスを受けられる仕組みづくりを進めます。

■ 妊娠・出産・子育ての希望に応える環境づくり

- 妊娠・出産への支援
- 保育・子育て環境の充実
- 教育環境の充実

■ 健康でいきいきと暮らせる環境づくり

- 保健・医療体制の充実
- 介護予防サービスの充実、安心して生活できる環境の整備
- 障がい者と共生するまちづくり



基本目標4 古平町への新しい人の流れをつくる

海産物や水産加工品など食の魅力を活用して交流人口と観光消費の拡大をめざすとともに、空き家の解消などの課題解決に向けた移住促進を図ります。

■ 特産品を活かした広域観光の推進

- 食を活用した広域観光の推進
- 観光交流センター(仮称)を活用した情報発信
- SNSを活用した地域PR

■ ターゲットを絞った移住・定住の促進

- 空き家の利活用
- 若者のU・Iターンの促進



～ 魅力あるまちを守り、次の世代へ引き継いでいくために ～